

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470800455		
法人名	有限会社 エフ		
事業所名	グループホームいせ		
所在地	三重県伊勢市一之木4丁目11-31		
自己評価作成日	平成27年9月22日	評価結果市町提出日	平成27年12月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470800455-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27 年 10 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大切にしていることはアットホームな環境を築くことです。11月で開設13年、開設時からの理念を基に、一人ひとりの思いを大切に、笑顔で社会とつながった当たり前の生活が送れるように支援させていただいています。開設年度からの職員も多く、思いを汲み取る力、技術を培いながら、その時の状況や要望に、臨機応変に対応出来る柔軟な姿勢を常に心がけています。終末期の方においても、共に生活をしてきた家族として、ターミナルケアへの取り組みを協力医や訪問看護、家族の協力を得て実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地に事業所が立地しており、近隣に「コメダ」店や伊勢神宮外宮があり、利用者の楽しみの一つの場となっている。理念に掲げられているように、人生の先輩として尊厳し、態度・言葉かけに気を配り、また、明るく感じられるよう服装にも気を遣い動物や利用者の好みそうな花等の柄をあしらったエプロンを着用し、日々関わりの中で心に寄り添うケアをされている。利用者の人生の終末期に関われることを大切に感じ、終末期ケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、実践のための振り返りをミーティングで行っている。日々の申し送りの中でも、気付いたところ等、理念に沿った考えの下話し合っている	理念で唱えた「人生の先輩」として尊敬し、言葉遣いや態度に気を遣い寄り添っている。ミーティングや日々の申し送り時、理念に沿ったケアがされているか振り返り話し合い、落ち着いた気持ちで過ごしていただける様心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や喫茶、買い物、外食等の外出ケアや、地域行事の参加等日常的な交流を行っている。開設記念行事や家族交流会を開催し、地域の方を招いて、食事をしたり歌を歌うなどの交流をしている	地域行事の「餅つき大会」に参加し、お餅をたくさん食べられた方もあり楽しまれた。事業所主催の開設記念行事や家族交流会では、食事会などを催し、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出支援等で地域の方と交流の機会を多く持つことにより、認知症の方の理解と援助の輪を広げている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況、様子、行事等を報告し、問題となっていることや、これから取り入れて行きたい事などについて話し合い、意見や感想等をサービスの向上につなげるようにしている	家族の方より、職員の名前が覚えられないとの意見があり、全職員のネーム入り似顔絵をホールに掲示する計画にて作製中である。また、運営推進会議の案内文書内容を考慮中で、多くの参加を募る努力をしている。	利用者の参加や、医療機関・警察署・消防署への参加呼びかけを行い、更なるサービス向上に活かされることを望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の申請時や運営推進会議や研修会等で、入居者の生活の様子や現場の状況を伝えるようにしている。災害時の介護職員の派遣に関しても協力関係の構築に努めている	運営会議での情報提供や法改正時の情報提供などで、現場の状況を理解してもらっており、協力関係は良好である。また、包括支援センター主催の研修に職員が個々に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実践の中で気付いたことやケアの振り返りを行い、身体拘束をしないケアとはどういうものかという理解と共通意識が持てるようにしている。基本的なケアを充分に行い、より良いケアの実現に向かって努めている	ミーティングで課題を検討し、拘束をしないケアを共通認識している。現在、転倒防止のため家族と話し合い了解の下、1名の方が2点ベッド柵を使用しているが、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する書籍や資料をすぐ見られるようにしている。個々のケアに関してはカンファレンスにて振り返りを行い、職員間で注意し合える状態にし、新しい職員には先輩職員がその場その場で助言し防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新しい入居者様で青年後見人制度を利用されている方が見えた事もあり、学ぶ機会を持ちたいと考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に関する説明は入居時に時間をかけて行い、疑問や不安がないように心掛けている。疑問や質問には出来るだけわかりやすい言葉で答えるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には手紙や電話、面会時に生活の様子を報告する等、気兼ねなく話せる雰囲気を中心掛けている。運営推進会議に市職員の参加がある事を案内状で伝え、頂戴した意見はミーティングで反映している	面会時に意見・要望を聞いており、ケアに関する意見がほとんどである。運営推進会議への参加を募り半数ほどの方が随時参加している。昨年の課題であった利用者・家族・職員と一緒に過ごす機会を増やすため、「イチゴ狩り」への参加を予定したが実行できず来年予定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と一緒に休憩を取ったり、ミーティングで職員の意見・要望を出せるようにし、管理者が代表者に報告し運営に反映している	ミーティングや毎日の申し送り、また、随時に気づきやアイデアなど意見を聞いている。必要時、管理者より代表者に報告し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は実績や個々の努力に対して一定の評価を示している。職場環境に関しては管理者が職員の意見を聞き取り、上申し環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員採用時には管理者より認知症ケアについての研修を実施後、実践現場に入ってもらう。また施設内や外部の研修へも参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型連絡協議会及び伊勢地区サービス事業者連絡協議会に加入し、研修や交流会、見学会に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用に際しては必ず面談を行って心身の状況、生活の様子を確認している。同系列の施設から入居される場合は、施設の方からも、安心確保のための話を聞いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの提供内容をしっかりと伝え、不安や希望をしっかりと聞き、丁寧に説明している。要望があれば気兼ねなく話してもらえるよう伝え、信頼関係が築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや相談を受けた際には、本人・家族双方の思いや、抱えている問題・悩みの把握に努め、必要な支援を共に考えながら支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の出来ることを観察し、本人の持てる力を発揮できるように考えながら支援している。更に入居者同士、職員と入居者が互いに助け合える関係作りも考えながら支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活や様子や出来事や職員の思いを家族に伝え、情報を共有し、職員では補うことの出来ない家族にしかできないものがあることを理解していただき、本人を中心に支え合っていく関係が築けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、近所の方、兄弟、親戚等の来所は、いつでも来てもらいやすい雰囲気作りをして、関係が途切れてしまわないように努めている	入居以前の、馴染みの方に会いたいとの要望は無くなってきているが、入居後の新しい関係が生まれている。また、知人・友人の来訪は減ってきているが、家族の来訪は継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、席関係、外出等ストレスを感じることがないように努めている。食事の時間に呼びに行く、車椅子の方を元気な方が押して散歩する、食事が進まない方に声かけする等、様々な助け合う場面があり見守っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の様子を伺い、相談事があれば応じている。楽器の演奏をしてくれていたご家族には、また来ていただけるようお願いしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中から出てきた言葉や表情から本人の思いを読み取り、会話の中で思いを引き出せるように努めている。聞き取った思いや希望はカンファレンスを行い職員が共有し実践に努めている	要望を直接話さない方が帽子をかぶって外出をアピールする等、表情や行動から思いを把握している。同じ目線で声掛けすることを心掛けている。1日中部屋に閉じこもっている方に、布でのカレンダー作成を促すなど、その人の能力を引出すよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴、病歴、生活環境等のアセスメントを全職員が把握に努めている。入居後も本人との会話や家族や友人の面会時に話をする中で情報の把握に努め、職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を個々の介護記録に記し、業務日誌で確認、申し送りし、カンファレンス、ミーティングを行うことで全職員が利用者の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の持っている力や本人の希望を見つけ出し、生き生きと過ごせるように観察し、面会に来られた家族や友人知人から得られた情報や意見・アイデアを活用し、現状に即した介護計画を作成している	面会時の家族の情報や、職員の気づき・アイデアがケアプランに反映している。2ユニットを区別なく職員全員が関わっている。ケアプランは3か月毎に見直ししているが、現状に即して臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言動・表情・職員の気づきやケアの実践を個別に記録し、職員間で情報を共有し、毎月のミーティングにて話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば都度カンファレンスをし、本人や家族の状況・希望に出来る限り添えるよう、個々の柔軟な支援・対応が出来るように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや行事に参加したり、近くの喫茶に出かけたりして、地域資源を活かし楽しめるように支援している。地域の方に施設の行事に参加してもらい、施設を理解・協力をしてもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に連携医との24時間連携体制の説明を行い、本人・家族が安心して医療を受けられることを前提に主治医を選択してもらっている。専門医が必要な場合は、職員又は家族の付き添いで受診してもらっている	全員が協力医に受診しており、定期的な往診と毎日の個々の診療がされている。また、協力医療機関との24時間連携体制もとれており、適切な医療が受けられるよう支援している。専門医療機関へは家族の付き添いが中心だが、家族が遠方の利用者は職員が付き添って受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには准看護師を配置。週一回の訪問看護もあり、日常の健康管理や医療面での相談・助言を受け、適切な受診の支援をしている。日々の観察が基盤になり全体の機能を活かしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族の状況に応じて洗濯物やオムツを届け、ホームでの現状説明や状態を伝えたり、入院中の様子を聞き、ホームで出来ることは協力している。病院医師からの情報は連携医を通じて確認し、ソーシャルワーカーとも相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期の対応についての説明を行い、家族の希望を伺っている。ホームでの終末を希望された場合は、連携医、訪問看護の協力を得て段階ごとに話し合いを持ち、家族の希望に沿うようにしている	家族の希望を伺い、終末期支援を行っている。その人の人生の週末に関われることを大切に感じ、取り組んでいる。協力医との連携もとれており、随時家族と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受講し、緊急急変時の対応に関する施設内研修を行っている。(新職員は行う予定)事故発生・緊急時の対応マニュアルが各階に掲示してある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施。対応手順の確認や非常階段での避難、避難召集の確認等を行っている。運営推進会議でホームの状況を伝え、野外に協力できることを協議している	年2回事業所主催の防災訓練を消防署の協力を得て行っている。3階建てで、2・3階で過ごしているため非常階段での避難訓練を安全確認しながら行っている。年1回の地域防災訓練にも参加、災害時の地域との協力体制は得られている。備蓄も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のアセスメントを基に、気持ちを汲み、配慮しながら言葉をかけるようにしている	理念にも掲げ尊厳をもった対応を心掛けている。トイレでの排泄や部屋でのオムツ交換時、戸をしっかり閉めるように気を付けている。大きな声を出したりその人にとって嫌な言葉を使わないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「ええ天気やな」「今日はどうするんや?」「散歩行こかー」の言葉を聞いて外出する。「歌聴かしてー」全体の調和を考えつつ歌のTVをかける、「口紅探しとんのさ」一緒に探して口紅をつける等、様々な場面で臨機応変に対応し、思いを表してもらえるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今まで日課を設けずにきたホームだったが、嚙下体操を日課に取り入れている。一人ひとりの様子で気の乗らない方は無理せず、楽しんでいただけ方には笑顔でメリハリある時間を設けながら、眠いときには部屋で寝転ぶ等、一人ひとりの過ごし方は大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や化粧・髭剃りなど清潔感がある生活を過ごせるよう、定期的に支援している。入居時の面談や本人、家族との会話からこれまでの生活の様子を伺い、その人らしさを失くさない身だしなみが出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	揚げ物が苦手な方は別メニューに、固いものが食べにくい方にはキッチンパサミを提供し、食べやすい大きさに切ってもらう等食事が楽しめるように配慮している。忙しくしている職員を見て、「出来ることあったら言うて」と配膳・盛り付け・片付け等、手伝ってくれている	食材は生協で購入。各ユニットで職員が食材を見て献立を考え、利用者の希望も取り入れている。能力に応じて盛り付け・配膳などを一緒に行っている。テーブルの配置は利用者同士の関係が配慮されており、楽しく食事ができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調や食事摂取を把握しやすいように記録し、飲み込みが困難な方にはミキサー食やトロミを使用したり、食事量が少ない方には補助食品を利用するなど、栄養バランス・水分量が確保できるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力で足りないところはスタッフが介助をしている方、始めからスタッフが口腔ケアをしている方と、一人ひとりの力に応じて行ってる。訪問歯科による口腔ケアも行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のサインやリズムを把握し、力に合った排泄支援が出来るように支援している	汚染なく清潔に過ごしていただく事を心掛けている。布パンツ着用者は5名、大半の方がリハビリパンツ・パット併用している。一人ひとりの様子を見てトイレ排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排出リズムを考慮して、個々に合う薬の服用や腹部のマッサージ等を行い、便秘にならないように対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間は難しいが、日中であれば希望の時間帯に入浴できるようにしている	基本午前中の中の入浴であるが、希望に沿った時間の入浴もある。嫌がる人にはあくコミュニケーションをとり誘導している。菖蒲湯・ゆず湯等季節感を味わい楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯、就寝時間は定めず、一人ひとりの状況に合わせて対応している。疲れたら休憩する等、一人ひとりのリズムを出来る限り尊重している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の変更、追加の場合は薬情報だけでなく、申し送りや連絡ノートに変更の理由や服用後の状態の変化を記して、全職員が把握できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の出来ることを張り合いに完成まで頑張ってもらっている(カレンダー作り)一人ひとりに出来ることをスタッフが声かけながら側で見守り、してもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「ええ天気やなー「今日はどうするんや？」帽子をかぶってお出かけアピールされたりと外出好きの方がみえ、散歩や近くの「コメダ」に外出の機会を持つように心掛けている。家族との外出、地域行事への参加も楽しみにされている	天気の良い日は、ほぼ毎日戸外に出ており、近所の「コメダ」店や伊勢神宮外宮近くの「赤福」店での外食を楽しみにしている。家族との日帰りや1・2泊の旅行をしたり、イチゴ狩り・薔薇園・紅葉見学など季節感を味わい楽しい外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば一緒に店に行き、一人で買い物をしてもらっている。一人での買い物が困難な方は一緒に回り、好きなものをカゴに入れてもらい購入している等、個々の力に応じて支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出で、いつでも自ら電話をかけられるようにしている。自分でかけられない方には通話できる状態にして本人にかわり話してもらっている。手紙を出して欲しいとの要望がある時は、スタッフが預かり投函している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や絵、手作りの装飾品を飾って季節感を出している。日常の写真やイベント事の写真を飾って、思い思いの楽しみのある空間作りを心掛けている	清潔感のある明るい感じの食堂居間である。廊下が広く、壁には利用者・家族の写真が沢山掲示され、利用者の手作りの作品など大切に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの置き方を工夫する、花を飾って目隠しをする等して、居心地の良い空間作りを工夫している。ホール以外に畳スペース・玄関ホールにはベンチや椅子を置き、思い思いに過ごせる空間作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの飾り、こだわりの物があれば持ち込んでいただくように家族に伝えてあり、居心地良い安心な空間となれるように工夫している	好みのぬいぐるみや家族写真、仏壇などが置かれ、利用者の思いを大切に居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り障害物は置かない、自分の居室が覚えやすいように好みののれんをかける等、自分の力を発揮しやすい環境に整えていき、混乱や失敗があった場合はその原因を考えて、その都度整備すると共に創意工夫している		